

みんなの新聞感想文コンクール最優秀・優秀作品

多彩に表現

小学3・4年生の部



◆最優秀賞
「シラカンスはぼくたちのご先祖様？」
湯本 一小4年 藁谷 琢也君

「シラカンスの胸びれの筋肉に、ビートの筋肉の原型発見」。この記事を見て、どういふことだろうかと不思議に思いました。人間とシラカンスでは、見た目も住んでいる場所も全然ちがうのに、なぜぼくたちの筋肉の原型がシラカンスにあるのか考えてみました。

水河期で、地上に住む多くの生き物がせつめつした中、深海で生き延びたシラカンス。その生き化石と言われ、シラカンスに、人間と同じ「一関節筋」と「二関節筋」があることを発見したそうです。それは、ひれを8の字に動かす役割を果たすと書かれていました。人間と四本足の動物にしかない関節筋を、シラカンスが持っているのです。ぼくも自分のうでを大きく動かしてみたい。うでを後ろに下げ、ぐるりと真上へそじて前からおろします。プールでのパタフライの泳ぎ方を想像してみました。そんなことが、深海にいたシラカンスができるのは、とても不思議だし、海の中で、どういふような動きをする必要があったのか、ますますきょう味がわいてきました。

ぼくは今まで、魚類が陸に上がったから、四本足の生き物に発達していったと思っていましたが、シラカンスがこの関節筋の構造を持っていて、そこから、生物が陸に上がった後も生きていたと考えられるとシラカンスの構造のすごさに感動します。もしかすると、シラカンスは陸の上で歩けるのではないかと、ぼくは思いました。それとも、シラカンスは、いつか陸の上を歩いてみたから、関節筋を発達させたのかもかもしれません。

ぼくはアクアマリンで、生きたシラカンスの水中映像を見たことがありません。シラカンスの顔を見ました。洞くつでじっとしているシラカンス。もしかすると、ぼくたちの祖先になるのかな。



◆優秀賞
「未来のプログラミング」
柴宮小4年 武田 龍斗君

「プログラミングをやってみよう」と、記事を見てそう思いました。前に一度だけ、プログラミングを使って、ドミノのゲームを、友達とよく力をつけて作りました。ドミノがたおれるように、コースを作るプログラミングです。ドミノをすらすら、ボールの形をかえたり、数をふやしたりしました。記事の写真を見た時、自分もこんなえがおで作っていたのかな、と思いました。

プログラミングをやる前は、たかさんのボタンがあったてむかしそうだな、と思っただけで、やってみると意外とかんたんにできました。でも「車の中にも百以上のプログラミングが入っています」と記事に書いてあって、びっくりしました。プログラミングがあることは知っていたけれど、そんなにたくさんだなんて、おどろきました。車には、「動く」「止まる」ぐらいしかないと考えていたからで

小学5・6年生の部



◆最優秀賞
「ロボットと共に暮らすために」
原町二小5年 宮原 知大真君

「AIが医師の診療支援」。新聞を読むと、こうした診療支援システムだけでなく、介護予防ロボや災害救助用ロボット、ロボットなど、いろいろなロボットが開発されていることがわかります。そんな記事を見るたびに、僕はうれしくなります。人間の力だけでは難しいことも、ロボットにサポートしてもらえば、多くの人が助かるようになるからです。

僕の祖母は、「一人でいる時は、何が起るかわからないから、不安な時もある」と言っていました。急に具合が悪くなった時など、サポートできるシステムがあれば、祖母や一人暮らしのお年寄りも、今より少し安心して生活できるようになる、と思います。

でも、その一方で、「殺人ロボット」規制を」という記事を読み、AIの危険性にも気づかされました。「自ら攻撃目標を識別して殺傷する能力を持つ兵器」を作ることが



◆優秀賞
「私の携帯・スマホ使用宣言」
野田小5年 岡部 明希さん

今、世界では、とても多くの人がスマートフォンを利用しています。日本では、小学生でさえ、六人が一人がスマートフォンを持っているそうです。スマートフォンは、カメラやネットなど、いろいろな機能があってとても便利なので、私もいざいざ使いたいと思っています。

そんな時に、この記事を読みました。私の意識は大きく変わりました。今までの私は、「私は事件なんてせつたい起こさない」と思っていました。でも、決めつけていたかもしれないと思ったのです。なぜそう思ったのかというと、記事の最後の方に具体的な事例が書かれていて、今では、だれでも簡単に事件に巻き込まれてしまうことを知ったからです。もし、私のネットが原因で、大金を失うことになるだけじゃなく、想像する以上に、このことがきっかけで、私



◆優秀賞
「この夏一番うれしいニュース」
桜小4年 西山 隼太朗君

「野球・ソフトボール五輪復活」。この見出しを見た時、ぼくは、大きな声で、「やったあ」と喜びました。でも、それだけではありません。記事をよく読んでみると、「野球やソフトボールの予選を、福島県内で行われるかもしれない」ということも書かれています。

ぼくは、小さいころからずっと野球が好きです。だから、今ソフトボールのスポーツ少年団に入って、レギュラーを目指してがんばっています。中学生になったら、野球を始め、将来はプロ野球選手になって、世界で活躍したいと思っています。だから、毎朝新聞のスポーツ欄の野球のページだけは、必ず読んでチェックしています。今は、もうすぐ始まる甲子園の記事もとても楽しみにしています。福島県代表の聖光学院の情報や、どのチームが注目されているかなどです。



◆優秀賞
「平和への固い握手」
校の聖母学院小6年 占部 太提君

オバマ大統領が、五月二十七日の午後、福島市の平和記念公園を訪れたのは、それ以前から、大統領が本当に福島を訪問するのが、伊勢志摩サミットが終わってそのまゝ帰国するのはないか、といううことに関心をもち、関連する新聞記事を見つけては熱読し、色々なことを考えていた。事前に被爆者に行ったアンケート結果は、「オバマ大統領に謝罪を求めない」が、七十八パーセントと多く、意外だった。ぼくは、一瞬にして大勢の命をうばった原爆投下に対しての、謝罪を求めるといふ多数を占めているものだと感じていた。ある被爆者の男性が、

被爆者の坪井さんが、大統領と固く手を握り合い、言葉と心の中を語り合っている。その光景は、核兵器の無い未来への第一歩をふみ出したと確信している。



◆優秀賞
「はなやかさのそばで」
関柴小5年 小関 夏穂さん

八月七日今日の新聞は、はなやかだ。リオオリンピック開まるのニュースもある。たかさんの国の選手団の入場や、美しやかな開会式の演出、美しく太陽の光に輝く聖火。私も楽しみにしていた。水泳を習っているの競泳が見たい、バドミントンのポスターを見たい、バドミントンの試合を見たい、とわくわくしていた。いよいよ本始まったのである。国を代表したトップアスリートが競った。携帯スマホ使用宣言を流す。新しいルールを作った。新しいルールは「友達と携帯・スマホでやりとりをする時は、悪口を書かない。返信は必ず返さなくてもいい。などのルールを決めて、それを守る」です。

私がスマートフォンを持ってた時は、向陽中のみなさんが考えたルールと自分で作ったルールを合わせて六つの「携帯・スマホ使用宣言」を守ること、スマートフォンを安全に使用したいと思います。



◆優秀賞
「いつか萩野公介選手のように」
福島大付小4年 深瀬 唯さん

「すざい。萩野選手、金メダルだ」。萩野選手、金メダル。私は今水泳を習っている。大会で個人メドレーに出場することもありますが、平泳ぎが苦手なタイプを打ちめることがとても難しいです。その次の日に萩野選手について書かれた新聞記事を読み、メドレーは苦手の泳ぎをがんばってこそ良いタイムが出ることに気がきました。萩野選手が金メダルを取るために苦手だった平泳ぎの練習に一生懸命取り組んだように、私も苦手を克服できるようにがんばりたいと思います。私はいよいよ来オリンピックに出場したいです。萩野選手はそんな私のそんけいする人であり、目標とする人です。私も同じように、同じメダルを取ることを目指します。萩野選手と同じ金色のメダルを。